

第4回 区民協働のあり方検討会議
議事概要

日時・場所

- 1 日時 平成29年9月5日(火) 午後6時30分～午後8時45分
- 2 場所 ココネリ3階 ココネリホール西側

次第

- 1 開会
- 2 案件
(1) 「新しい協働」の実現を妨げる要因(現実とのギャップ)と対応策について
(2) 「区民協働のあり方検討会議」報告書について

配付資料

- 1 区民協働のあり方検討会議 委員名簿・座席表 ... 資料1
- 2 区民協働のあり方検討会議の進め方 ... 資料2
- 3 「新しい協働」の具体例(未来新聞)の実現を妨げる
要因の抽出(ワーク4のまとめ) ... 資料3
- 4 「新しい協働」の実現を妨げる要因 ... 資料4
- 5 「区民協働のあり方検討会議」報告書(イメージ) ... 資料5
- 6 練馬区区民との協働指針 ... 参考1
- 7 みどりの風吹くまちビジョン ... 参考2
- 8 みどりの風吹くまちビジョン(概要版) ... 参考3
- 9 区政改革計画 ... 参考4
- 10 協働の形態とその意味合い(佐藤座長資料) ... 参考5
- 11 「新しい協働」の具体例 ... 参考6

出席委員(11名)

佐藤真久委員、広石拓司委員、加藤政春委員、武田康宏委員、高原洋子委員、
尾原亮子委員、三谷ますみ委員、村木善郎委員、吉田美穂子委員、美玉典子委員、
田中一宏委員

区出席者

専門調査員、地域文化部長、協働推進課長

事務局

地域文化部 協働推進課

傍聴者

0名

議事概要

1 開会

座長

- ・第4回区民協働のあり方検討会議を開催する。

2 案件

(1)「新しい協働」の実現を妨げる要因(現実とのギャップ)と対応策について

事務局

- ・本日のワークの説明をする。
- 資料2、資料3、資料4を使い、本日のワークの説明

座長

- ・従来の協働は、仲間同士であったり、お互いが理解できるもの同士で行う「同質性の協同」であった。
- ・第1回、第2回の会議を通じて、「課題」と「長所」の組み合わせをすることによって、「課題解決」につなげるということを各委員が実感されてきたと思う。
- ・前回の会議の中では、「課題」と「長所」を組み合わせで実現する「未来新聞」を創作した。異なる活動主体同士がビジョンをつくり、それに向けて歩み寄っていく。もしかしたら、初めはお互いに思惑が違つかもしれないが、「一緒にできるといいな」と思うものを、5年後の「未来新聞」という形にした。この新聞記事の実現に向けて、どのように歩み寄っていくか。そのような議論をした。
- ・従来の協働は「向き合い型」で、協働できるように場をつくるが、異なる活動主体同士が場を作ることに向き合ってしまうため、協働疲れをしてしまう。
- ・そうではなく、各活動主体が各々の強みを発揮しながら、目指すビジョンに向かって、それぞれが歩み寄っていくようなプロセスが重要で、お互いに組めるところから一緒にやっていく、そんな想いの中で、これまで議論をしてきた。
- ・1回目の会議では協働のガバナンスの話をした。開始時の状況では、パワー、資源、知識の非対称がある。団体ごとに持っているものが違うということ。さらに、その団体同士が協力の歴史、あるいは、軋轢の歴史を持っている。その中で、どう協働の場に誘発できるかが、非常に重要である。
- ・誘発をすることによって、協働のプロセスが回っていく。このプロセスの中では、

誠実な折衝が重要である。お互いに関心や価値観等が違う中で、どのようにひざ詰めの対話ができるか。信頼の構築をしていくか。これだけでも大変なことである。

- ・多くの団体が関わることによって、相互利益を追求し、一緒に取り組んでいく中で、共通の理解を見出していく。最初から共通の理解があるわけではなく、実施していく中で、お互いの理解が深まる。また、中間の成果を共有していく。そうしたプロセスが重要である。
- ・これまでの協働では、このような発想はなかった。一緒に手を組んで成果を出せば良いと考えられてきた。しかし、実はそこに求められるのは、信頼関係の構築である。
- ・どのような人たちを協働の場に誘発し、信頼関係を構築していくか、それが無いと、これまで検討してきた協働には進んでいかないため、協働のガバナンスの図を使い、改めて確認した。
- ・B委員から、補足を願う。

B委員

- ・人と協力するためには、心の準備ができていないと駄目だと言われる。例えば、明日から町会とNPOで、ある事業をやることが決まったから「ヨロシク」と言われても、「何それ」とか「今まで町会の活動に参加してないのに何で急に仕切るの」ということになる。開始時の状況は非常に重要で、簡単な解決策があるわけではなく、お互いに良く話をする等、お互いのことが良く理解できれば「なるほどね」と思えるようになる。
- ・一方で、NPOの人たちも「私たちはNPOですから」と言って、町会との関係を拒むだけでなく、町会の人たちの想いを聞くことで、苦労されている活動の中の「この部分は自分たちで補完できるかもしれません」ということになる。事前に話し合いをどれだけできるかが、非常に大切である。
- ・各委員の団体の現状を考えたときに、他団体と協働しようとしても、そう簡単には進まないことがわかっていると思う。今日のワークでは、その時に、どんなことがあれば良いのか、あるいは、どんなことが難しいのかなどの意見を言って欲しい。例えば、町会で協働しようとする時に、事前に何をしないと協働の舞台には乗れないのかを話し合っ欲しい。
- ・また、他区で、NPOに協働のアンケートを取ったことがある。「今後、力を入れていきたいことは何か」という問いに、区と組むが6%、他の団体と組む3%で、ほとんどの団体は協働を考えていなかった。NPOのようなオープンなイメージがある団体ですら、このような状況である。
- ・では、何に力を入れたいのかというと、団体の運営の基盤を固めるが90%、人材の確保が80%程度である。つまり、多くの団体は、自分たちの団体が、しっかりと運営できるようにならないと、周りと組めないと考えがちである。

- ・これまでのワークでは、自分たちの団体ができていないことがあるから、協働しようという議論してきた。人手が足りない時に、人手を集めてから協働するのではなく、協働することで、他の団体から自分たちの弱い人手を補っていく。日本人はまじめな人が多いため、自分ができていないのに、他人に何かをすとか、他人と組むというのは苦手である。その当たりの意識転換の方法も議論できれば良い。
- ・また、協働のプロセスでは、案外ルールづくりということが大切である。知らない人と組むときに、運営ルールを最初にしっかりと決めておくことが大事である。経費の使い方や領収書の取り方等、細かい部分も大切である。活動に集中するためには、情報の共有やお金の使い方等、運営の基盤のような部分をしっかり話し合い、決めておくことが重要だと思う。
- ・他団体と組むのは「面倒くさい」、「嫌なことが起きそう」と思うので、今までどのような嫌なことがあったかを思い出してもらい、その時にあったら良かったものを考えて欲しい。
- ・企業や商店は営利活動だから、まちづくりや福祉の活動では一緒に組めませんという話がよくある。営利企業が参加する時は、営業は駄目ということになる。ただ、企業に全くメリットが無いのに、ボランティアとして手伝うだけでは酷である。そのような場合、どのようなルールが必要かを考えてもらえば良い。
- ・協働は概念的には理解できるが、実行しようとする、団体の内部でも困難があり、他団体と協働していく上でも、トラブルがたくさん起きる。
- ・新しい協働では、様々な困難がある中で、つぎのステージを練馬発で示すことができれば、おもしろいと思う。その当たりを話し合っていきたいと考えている。

座長

- ・それでは、各班に分かれてワークを行う

- ワークショップ -

事務局

- ・班ごとに、話し合われた内容の発表をお願いします。
- ・まずは、4班から発表をお願いします

K委員

- ・この班では、協働のプロセスについて話をした。
- ・協働のプロセスの中で一番必要なのは、飲み会である。飲み会がすべてを解決する。何故かと言うと、協働には情報の共有が必要で、参加が少ない方に適切な情報を提供することで、途中でフェードアウトや不信感を招かない状況ができる。お互いの情報を共有するために、一番良い手段が飲み会である。
- ・目標を設定して、各団体が歩み寄っていくためには、各団体に小目標、中目標があり、

それを大きな目標に絡めさせていく必要がある。

- ・協働を進める中で、コーディネーター役が非常に重要である。社会福祉協議会、みどりのまちづくりセンター、コンサルタント、行政等が第三者として、団体同士をコーディネートする。それが、つなぎ役だったり、ファシリテーター役だったり、プロセスデザインをしたり、プロデューサーをしたりする。オープンな立場でサポートをする推進役が重要である。
- ・協働を始める初期段階では、窓口として事前にNPO等の情報をもたらえる場所が必要である。また、やりたい人とやって欲しい人を探す際に相談できる個人レベルでの人材バンクがあれば良い。
- ・4班では、以上のような話があった。

事務局

- ・つぎに、3班から発表をお願いします。

区職員

- ・この班でも、協働のプロセスについて話をした。
- ・一番大切なのは話し合いの場である。単に集まって話し合うだけの場ではなく、会議のルールがあり、みんなが守ることで、立場の違いを乗り越えていける場ができるのではないか。その中で、顔が見え、信頼関係を築いていければ良い。
- ・その場の設定、コーディネーターは、現時点では区がやるのが望ましい。団体がやると、その団体への好き嫌いもあるため、参加して欲しい団体が集まらないという懸念がある。
- ・プロセスの中では、自分の団体から変えていくことが重要。今までの町会は、加入促進を一生懸命行ってきた。しかし、町会は、加入者を増やすことが目的ではなく、住みやすいまちづくりが目的であるため、同じ目的で活動している団体であれば、連携していく。一緒にやることで信頼関係を築いていく。
- ・地区祭は、地域住民だけで行うと肩が凝る。地域住民を中心としつつ、ある程度、他地域の人も受け入れるような弾力性も必要であり、そうした中から、団体同士や世代間の交流を促進できれば良い。
- ・他の団体とつながる機会としては、「目的」でつながる、「イベント」でつながる方法がある。ただし、「目的」でつながると、同じ課題を抱えている場合があるため、課題解決につながらないという懸念もある。
- ・信頼関係は、自分のことを伝えるだけでなく、相手の話も聞くことができる関係である。
- ・地域の中には、様々な団体や住民から頼りにされ、地域の実情に精通して活動している人がいる。そうした人材を活かして、連携することで相乗効果が望める団体同士を引き合わせていくことができる。
- ・最初から協働で大きな取り組みを実現するのではなく、小さな成功体験や協働で取り

組んだ結果として「楽しかった」で終われると、お互いに歩み寄れる関係ができる。

- ・ 3班では、以上のような話があった。

事務局

- ・ つぎに、2班から発表をお願いします。

Ｊ委員

- ・ 2班では、協働の開始時について話をした。
- ・ そもそも協働を始めるに当たり、何か課題なのかを話し合った。
- ・ 協働についての勉強会から始めたほうが良いという意見もあったが、そうすると協働ありきになってしまう。NPOは、想いが一致した人が集まって活動している。その想いが一番の核となるため、想いの実現に向け、例えば、メンバーが10人いたら、10人の力しかないため、人材、人脈、資金等、個の力に限界があることを認識する。その上で、同じ想いを持つ他団体と一緒にやり、自分たちの想いの根幹を変えないまま、想いが昇華できるということを、最初に共有認識として持つことで、協働の発想が生まれる。
- ・ 区との協働の場合、地域ごとに特性があるため、区は地域の実情を踏まえて、地域に提案をしないと、地域の想いと乖離が生じる。乖離があると協働をしようという意欲が沸かない。また、地域は「やらされている」、「便利に使われている」ように感じる。
- ・ 区は、一緒にやろうと言いながら、十分な資金を用意しない。協働という時には、十分な資金も大切である。
- ・ 町会は、そもそも協働という発想がない。協働の発想が生むためには、まず、町会の課題を「見える化」することが必要である。その上で、課題の解決を考える中で、解決策の一つの選択肢として、協働という発想が出るようなプロセスを踏むと良い。
- ・ しかし、現状は、町会の課題について役員で話をしても、解決策は区に訴えていくという話になる。この部分の発想を転換して、もう少し内部で検討する努力をしなければならない。
- ・ 町会は、町会への加入を促すだけでなく、地域の人たちがグループを組んで、地域のために何かしたいということに対して、一緒にやるのが大事である。一緒にやることで信頼関係が生まれ、結果として、町会に入ってくれる。
- ・ 地域に民間の学童クラブができた。学童クラブから町会に手伝って欲しいという話があった。町会では事故のリスクも懸念しつつ、地域の子どものための学童クラブであるため、勇気を持って、人の派遣を決めた。その結果、学校とのつながりが強くなり、保護者とのつながりもできた。また、学童クラブが町会の活動を手伝ってくれるようになった。
- ・ 2班では、以上のような話があった。

事務局

- ・ つぎに、1班から発表をお願いします。

区職員

- ・ 1班でも、協働の開始時について話をした。
- ・ 町会の中には、課題以前に町会の会員でも「町会が何をしているのかわからない」というところがある。活動の「見える化」ができていないため、町会内部でも課題が共有されない。課題が共有されなければ、協働の発想にはつながらない。
- ・ 一方、活動記録を作り、それを総会で上映している町会もある。しかし、全般的には、町会員全員が共有できる活動資料が十分ではない等、協働が始める以前のところに留まっている状態である。まずは、活動の「見える化」をしていくことが大事である。
- ・ 信頼感を醸成していくためには時間をかけていく必要がある。でも、現実的には、そんなに時間をかけられないため、まずは一緒に動いてみる。一緒にやることで実績ができ、実績ができると信頼感が醸成される。
- ・ しかしながら、自分たちで団体に近づいていくことは、簡単なことではない。その時に、公的機関の役割が大きい。例えば、区が発行している「地域活動ニュース」を、NPOの多くが読んでいます。他の団体を調べるきっかけになる。団体自身が発行しているパンフレットもあるが、良いことしか書いてないため、その資料を持って、信頼できる団体かは判断できない。
- ・ まちづくりセンターが、団体同士の「出会う場」、「話し合う場」をつくっている。また、ねりま地域福祉パワーアップカレッジ等は、個人の出会いのきっかけになっている。こうした「出会いのきっかけ」や「話し合い」のルートを作ることによって、協働の前提である知り合うことができる。
- ・ 個人からできる取り組みとしては、知り合いの知り合いに声をかける、あるいは、自分たちの講座に来た人に声をかける等、共通項を見出して話しかけることで、何かが始まるのではないかと。
- ・ 話しかけるルートやきっかけ、理由をつくるのが、協働の最初のハードルとなる「他の団体を知ろうとしない」、「信頼感がない」という課題を越えていくための要素になるのではないかと。
- ・ 1班では、以上のような話があった。

(2)「区民協働のあり方検討会議」報告書について

事務局

- 資料5の説明

座長

- ・ 報告書の中に、各委員から、この会議に対するまとめのコメントを入れて欲しい。
- ・ 質疑に移る。
- 特になし

座長

- ・本日のワークの感想等をお願いする。

E 委員

- ・各委員と話しで、参考になる意見があった。一方、実現の道のりは遠いと感じた。
- ・地区区民館を預かる者として、5年先ではなく、来年度の事業計画で試してみて、上手くいくかを確かめてみたい。

D 委員

- ・協働する以前に、みんなでまちをつくっていききたいという意識を広めていくことがスタートだと感じた。

F 委員

- ・どうコミュニケーションをとってつながるか、また、それをどうデザインして、プロデュースをしていくかが大事だと感じた。

H 委員

- ・みんな困っていることは一緒だと感じた。
- ・前から気になっていたが、今ある協働の対象が団体だけである。区民全体を見た時に、団体に加わっている人の人口はかなり少ない。区民も当事者意識を持って何かをしている。そこをどうするか。私自身の問題意識としてある。

I 委員

- ・それぞれの立場の委員に担当直入に質問をさせていただき、それぞれの委員の経験から意見を返していただいた。それが良い経験になった。協働という大きな目的の中で、明日からの自分たちの活動にすぐに活かせると感じた。

J 委員

- ・印象に残ったのは、発想の転換ということである。また、協働は波及効果をもたらす。学童クラブと町会の例で、点と点が線になり、面になるところが大事だと感じた。

K 委員

- ・上手く言えないが、いろいろなグルグルが生まれても良いということが印象としてあった。このグルグルが様々な主体を巻き込んでいく。いくつかの班でコーディネーター役の話があったが、理想は、コーディネーター役が要らなくなり、自走していくようなグルグルが練馬の中で、たくさんできることだと感じた。

A 委員

- ・地域のいろいろな機能を連動させていくコーディネーターの塊ができていけば良いと感じる。誰かをコーディネーターとして位置付けるだけではなく、将来的にはお互い補完しあえる関係性づくりができれば良い。将来を見据えたうえでのコーディネーター役の検討ができれば良い。

G 委員

- ・今までは自分たちのNPOのやりたいことを実現していくことを中心として動いて

いた。

- ・H委員の発言にあった練馬区は区民の底支えがあって成り立っている。この言葉はすごく重いと思った。自分たちの活動、他の人と組んでの活動も、これからも続けるが、誰かの役に立ちたいという想いがあるため、それが協働の中心になっていけばと思っている。

C委員

- ・自分たちがもっと変わっていかなければならないと感じている。町会も変わっていかなければならない。課題があっても、課題がわからない。何が課題なのか、どうしてこのようになっているのか考える体質に変えていかなければならない。会長だけでなく、役員も意識を変えないといけない。
- ・学童クラブの例では、役員から反発もあった。しかし、「地域のためだ」ということを説得して協力した結果、上手くいっている。
- ・PTAの人たちが、町会に入ってくれなければ、一緒に何かをやる。やっていくことで顔がつながり、気持ちが変わってくると思う。
- ・こうしたことを続けることで、町会を支援してくれる人は増えていく。町会もまた支援を続けていく。
- ・自分たちの意識を変えて、声をかけ、話し合っていくことが一番大事だと思う。
- ・町会だけでなく、すべての団体に言えることだと思う。

座長

- ・今後の予定を事務局からお願いする

事務局

- ・次回は9月28日(木)午後6時30分から、ココネリホールで開催する。

座長

- ・以上で、第4回区民協働のあり方検討会議を終了する。